

SHOW HEY シネマールム

★★★★★

ソーシャル・ネットワーク

2010年・アメリカ映画
配給/ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント
120分

2010(平成22)年11月17日鑑賞 ソニー・ピクチャーズ試写室



監督: デヴィッド・フィンチャー
出演: ジェシー・アイゼンバーク/
アンドリュー・ガーフィールド
ド/ジャスティン・ティンバ
ーレイク/アーニー・ハマー
/マックス・ミンゲラ/ブレ
ンダ・ソング/ダグラス・ア
ーバンスキ/ルーニー・マー
ラ

みどころ

日本では、ホリエモンこと堀江貴文が「出る杭」としてたたかれたが、さて「言論の国」アメリカでは？機関銃のようにくり出される膨大なセリフを、あなたはもう受け止める？

「フェイスブック」って一体ナニ？年配者はそのことからして知らないだろうが、坂本龍馬が言うように、日本の若者は広く目を世界に広げなければ！それぞれにすさまじいエネルギーを発揮するアメリカの3人の主人公たちの生きざまを、中国の「三国志」と対比しながら考えるのも一興では？

—— * —— * —— * —— * —— * —— * —— * —— * —— * —— *

■□■やっぱりアメリカは言論の国、と痛感！■□■

本作は、まず冒頭のシーンに引き込まれる。それは、ハーバード大学内のレストラン（バー？）のテーブルに向かい合って座るマーク・ザッカーバーグ（ジェシー・アイゼンバーク）とそのガールフレンドであるエリカ・オルブライト（ルーニー・マーラ）との対話。議題（？）は大学内のファイナルクラブ（ハーバード大学の男子学生によって組織される秘密結社的な団体で、入会には非常に厳しい審査が行われ、ファイナルクラブのメンバーとなった者は、在学中のみならず卒業後も一定以上の身分が保証される特権的な立場を得ることができる組織）への入会をめぐるものらしいが、2人の対話は日本人の若いカップルでよくみられる、どうでもいいことについての他愛のないおしゃべりではなく、議論そのもの。もともと英語は自分の主張を明確に述べるのに適した言語だが、2人とも頭の回転が早いから相手の言い分に対する反応（反論）が早いうえ、早口でしゃべるからそのセリフの量たるやものすごいものがある。現在開会されている日本の国会では、論点もかみ

合わず、つなぎ言葉や装飾語だらけでダラダラと訳のわからない言葉のやりとりが多いが、そんな退屈な会話しか日常見ていない私には、冒頭の若い2人のやりとりはきわめて新鮮。さすがアメリカは言論の国、とあらためて痛感！

さらに驚くのは、冒頭の機関銃のようなセリフのやりとりが本作では丸々2時間全編続くこと。今年10月1日からのNHKラジオ講座「まいにち中国語」応用編は、水野衛子氏の「映画で身につく！応用会話」だが、そこでは「技あり！プロの字幕テクニク」のコーナーがある。彼女の説明によると、字幕づくりで難しいのは長いセリフをいかに短く字幕にするかということらしいが、その観点からみると本作における字幕テクニクは最



高に難しいのでは？英語を完璧に理解できる人が本作のセリフを字幕を見ながら聞けば、まさに字幕翻訳をした松浦美奈氏のプロの字幕テクニクがわかるのでは・・・。

(C) 2010 Columbia Pictures Industries, Inc. and Beverly Blvd LLC. All Rights Reserved.

■□■今こそ、世界に目を開かなければ！■□■

去る11月14日（日）のNHK大河ドラマ『龍馬伝』では、「大名も武士もなくなったら、その後何が残るのだ？」と問いただす大殿様こと山内容堂に対して、坂本龍馬は「日本人です！異国と堂々とわたり合える日本人です！」と答えていた。この時代こんな風に「オールジャパン」としての日本人を意識し、明確に異国に目を向けていたのは坂本龍馬くらい？

そんな視点で本作を観ると、そもそもネットの世界に疎くかつ弱い私は、世界最大の「ソーシャル・ネットワーク・サービス、フェイスブック」自体を知らなかったのだから、本作はアメリカでは大ヒットしても、さて、島国ニッポンでは？そんな心配がある。本作の原作はベン・メズリック著『facebook 世界最大のSNSでビル・ゲイツに迫る男』。今ドキの日本人なら、どんなおじさんお婆さんでもビル・ゲイツは知ってるだろうが、「フェイスブック」の大成功によって若くして億万長者になった本作の主人公マークを知っている人は少ないのでは？

既得権益擁護色が強い日本はもともと若手起業家に厳しい保守的な風土だが、その中で例外的に突出したのがライブドアを起こしたホリエモンこと堀江貴文。ところが「出る杭

は打たれる」のことわざどおり、ライブドアもホリエモンも集中砲火をあびることになったから、私はそれが少し残念。時価総額を目指して会社を成長させることの何が悪い！本作を観て、今あらためてそういう主張ができる若手起業家が出てこなければならないのでは。まさに今こそ、坂本龍馬のように、世界に目を開かなければ！

■□■やはり三つ巴戦が1番面白い！■□■

大相撲では白鵬の連勝記録が63で途切れたが、大相撲の優勝決定戦で一番面白いのは3人で戦う巴戦。ゴルフでは2人、3人、4人のプレーオフはザラだが、大相撲での巴戦はめったにない。他方、「三国志」では魏の曹操、呉の孫権、蜀の劉備という3人の英雄の戦いがメインだが、同時に劉備、関羽、張飛という3人の義兄弟の死ぬまで変わらない「契り」も注目点。男女関係は1対1が基本で、2対1の三角関係になるとややこしいが、人間関係においては2人だけの関係より、3人の牽連関係の方が面白い。しかし、本作はまさにそれ。

本作では、マークの能力を見込んだエドゥアルド・サベリン（アンドリュー・ガーフィールド）がマークに近づいていく。そして、エドゥアルドがフェイスブックの共同創業者・CFOとして最初の資金1000ドルを提供することによって「フェイスブック」がスタートする。フェイスブックのアイデアはマークのものだが、マークはコンピュータおたくだから、エリカとケンカ別れしてしまったことからわかるように人づきあいが下手。それに対して次期オリンピックにも出場が期待されるボート部のトップにして、ハーバード最高峰のクラブ「ポーセリアン」のメンバーである双子の兄弟キャメロン・ウィンクルボス（アーニー・ハマー）とタイラー・ウィンクルボス（アーニー・ハマー）の親友であり、裕福なエドゥアルドが交際術にたけていたのは当然。したがって、全く違うタイプのこの2人が互いを信頼し、ビジネスパートナーであると同時に親友として結びつけば、鬼に金棒。誰もがそう思ったが、そこに更にショーン・パーカー（ジャスティン・ティンバーレイク）が登場してくると・・・？

ショーンは19歳で「ナプスター」をつくった男で、投資会社にもコネがあり、事業拡大欲はケタ違い。また酒や女に強いうえ、議論はメチャ強く、そのカリスマ性は際立つ



ソーシャル・ネットワーク デラックス・コレクターズ・エディション
(2枚組) 2011年5月25日 (水) 発売
ブルーレイ価格：3,990円 (税込)
発売・販売元：(株) ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント

ていた。そうなれば、マークにとってショーンはエドゥアルド以上にビジネスパートナーとして魅力的な男？そんな三つ巴関係の中で最初に崩壊したのは、マークとエドゥアルドの関係だが、さてショーンとの関係は？



(C) 2010 Columbia Pictures Industries, Inc. and Beverly Blvd LLC. All Rights Reserved.

本件では、「三国志」の曹操、孫権、劉備、あるいは劉備、関羽、張飛の関係と同じように、マーク、エドゥアルド、ショーンという3人の人物に焦点をあててその巴戦ぶりをじっくり鑑賞したい。

■□■ 2つの訴訟から何を学ぶ？ ■□■

新規ビジネスの世界、とりわけコンピューターソフトやネット上を飛び交う知的財産権の分野では争いがつきもの。そんな場合、争いの対象になるのは世界最先端の技術だが、それを争うのは人間だから、そこでは昔から変わらない人間本来の姿が見えてくる。NHK大河ドラマ『龍馬伝』で、大殿様である山内容堂から、「薩長連合を仲介したのが坂本龍馬だということを、なぜ言わなかったのか!」と問い詰められた後藤象二郎は「龍馬がうらやましかったからです」と率直に男の嫉妬心を披瀝していたが、ことほど左様に、訴訟に至る根本の理由が人間の嫉妬心にあることは多い。本作は一方では、マークとエドゥアルドの2人が立ち上げたフェイスブックの事業を、ショーンが参入する中で飛躍的に拡大していく3人の姿を描きつつ、他方では、訴訟となって血みどろの抗争を展開する3人とそれぞれが委任した弁護士の姿を同時並行的に描いていく。第1の訴訟は、ウィンクルボス兄弟がマークにアイデアを盗用されたと主張するもの。第2の訴訟は、エドゥアルドが創業者としての権利を一方的に剥奪されたと主張するものだが、さてこの2つの訴訟の行方は？

『映画から学ぶ法律』シリーズの出版を目指している私はこの訴訟の展開に興味津々だったが、法廷ではなく関係者が一堂に会して同一テーブルで議論をくり返している本作のシーンがいかなる手続にもとづくものかが弁護士の私ですらよくわからなかったのが少し残念。その点、どなたかわかる人がいれば、是非解説してほしいものだ。

2010（平成22）年11月19日記